

【競技会審査基準】

2021年5月17日

2021 ブロック選手権審査項目

オーディション形式 1次予選

技術 (Technique)/身体(Body) - 40点(各項目 10点)

難易度 (Difficulties)	バリエーション (Variation)	ボディコントロール (Body control)	クリーン・スムーズ (Cleanliness , Smooth)
ブレイキンの技(※1)や動き(※2)の難易度(習得の困難度に応じて変わる)を評価。	ブレイキンの技や動きなどのバリエーション(技、動きの種類)の幅広さを評価。	技や動きに緩急をつけたり、その場の状況に対応してボディコントロールができていないかを評価。	演技内容が円滑かつ無駄なく遂行されているかを評価。

※1 ブレイキンにおける技とは : パワームーブ・フリーズ・アクロバット・トリック・スレッド・ドロップ・コンビネーション

※2 ブレイキンにおける動きとは: トップロック・ステップ・フットワーク

表現/パーソナリティ・オリジナリティ - 40点(各項目 10点)

雰囲気の独自性 (Flavor)	オリジナル (Originality)	トランジション (Transition)	ディテール (Detail)
ブレイキンへの理解を佇まいや仕草で表現している。また、人格の表現、個性、情熱などに雰囲気の独自性があり、これが技、動きと伴っていることを評価。	演技のオリジナル性、選手独特の技や動きを評価。	技や動きを繋ぐ接続部分の独自性や、演技の始まりと終わり部分の内容を評価。	演技に含まれる全ての技や動き(全ての要素)の質を細部まで追求できているかを評価。

総合性 (Total balance) - 40 点(各項目 10 点)

構成 (Constitution)	完成度 (Excution)	音楽性 (Musicality)	※パフォーマンス・バトル (Performance・Battle)
技や動きの組み合わせが演技ラウンドの中で豊富な表現により構成されているかを評価。	演技ラウンド全体を目的と明確さを持って完了する能力を評価。	リズムキープができているかどうか。また、音楽に対して順応した踊りができているかを評価。	対戦相手が遂行した技や動き、表現に即座に対応し、自分の演技を向上させることができるかを評価。また、音楽や会場の雰囲気に合わせて勝利へ向けて手段と方法を組み立てられた場合に評価。

※オーディション形式による 1 次予選については、パフォーマンス・バトルの項目を評価しないものとする。

加点項目 10 点

驚き (Surprise)
ジャッジや会場が衝撃を受ける様な常識を超えるスピードや回転量、新しい技、動き、音の表現などで大きな効果を生む組み合わせが発揮された時に加点とする。

減点項目 各 -5 点

繰り返し (Repeat)	真似をする (Bite)	失敗・ミス (Clash)	公序良俗に反する (Misbehavior)
採点の対象となるバトル中に、同じ技や動きを繰り返し行ったと審査員が判断した場合に減点とする。	広く受け入れられている技や動き、仕草以外で、他のダンサー特有の技、動きの真似をそのまま行った場合に減点とする。	バランスを崩す、滑るなど、技や動きが止まったり、遅くなってしまった場合に減点とする。また、音を外してしまった場合も減点とする。	スポーツマンシップに反する、誹謗中傷の意味を含む、発言、ジャスチャーを行った場合に減点とする。また、直接的な接触において相手を手で押す等の行為が発生した場合にも減点とする。

減点項目 失格

失格行為 (Lost)
公序良俗に反する行き過ぎた行為やドーピング違反、怪我などにより演技続行不可能と判断された場合に、LOSTとなり全てのポイントがゼロになりバトルは強制的に終了となる。その時の勝敗については、ヘッドジャッジから説明がある。